

# ホリデイ・インズ社

石川 藍 広重 甫  
永澤 雄 中本 武志  
西川 寧幸

# 日本のホテル業界

日本に「東京ヒルトン」が開業されて以来、日本でホテル業界が隆盛するようになった。ヒルトンチェーンの他の都市型ホテルとしては、ハイヤット、マリオットなどが挙げられ、ホテル業界の競争は激しさを増してきている。

# 都市型ホテルのケーススタディー

都市型ホテルの更なる合理化・近代化を図り、特に人件費を抑えるために、極端な合理化と企画化を図り、しかも、現在のモータリゼーションに合わせて駐車場を完備して、猛烈なチェーン拡大を展開し、瞬く間に世界最大のホテル・チェーンにのし上がったのが、**ホリデイ・インズ社**である。

# ホリデイ・インズ社を選んだ理由

- ①グローバルに展開しているホテル。
- ②モーテルという新業態ホテルを生み出した。
- ③もとは、いろいろな事業に多角化した会社であった。  
。
- ④日本でもなじみ深い・・・

# モーテルとは

- 都心部に対して、郊外に新たに誕生した地区、郊外的高速道路隣接地区にあるホテル。
- 都心部と比較して用地価格も安く、広い駐車場とゆとりある客室、食堂も外気と緑に囲まれプールアスレチックを備えたアミューズメント型施設で週末の稼動はきわめて高い。

# 発表内容

- 1回目 ホリデイ・インズ社とは
- 2回目 他国の自社モーテルと日本のホテルの比較
- 3回目 問題点と今後の課題

# ホリデイ・インズ社とは



# ホテル概要



[www.japan.holiday-inn.com](http://www.japan.holiday-inn.com)

- 創業者ケモンズ・ウィルソン。
- 世界中にホテルやモーテルを保有するホテル・モーテルのチェーン店。
- ホテル・モーテル・チェーンの親会社。
- 1980年ごろまで、ホテル・モーテル業界1位。
- 世界79カ国、国内外合わせて1,700軒。

# ホリデイ・インズ社の位置づけ

## <ホリデイ・イン>

ロンドン ……Bグレード★★★  
香港 ……Aグレード★★★★  
メルボルン……Aグレード★★★★  
プーケット……Cグレード★

## <同国で同じグレード>

ヒルトン・マリオットなど  
ハイアット・シェラトンなど  
メリディアン・ヒルトンなど  
ホライズンなど

※グレードについては、以下の5段階

SLグレード・Lグレード・Aグレード・Bグレード・Cグレード

# ホリデイ・インズ社の歴史

ホリデイ・インズ社のホテル事業創業の契機は、1951年夏ケモンズ・ウィルソンが、やっと休暇を取り、ステーションワゴンに5人の子供を乗せ、家族7人でワシントンDCへドライブ旅行に出かけ、高料金と不便さを体験したことから、適正価格と快適さ、便利さを追求したモーテルを幹線道路に沿って展開することから始まった。

# ホテル事業の特化の過程①

1970年代末にはかなりの程度の多角化。

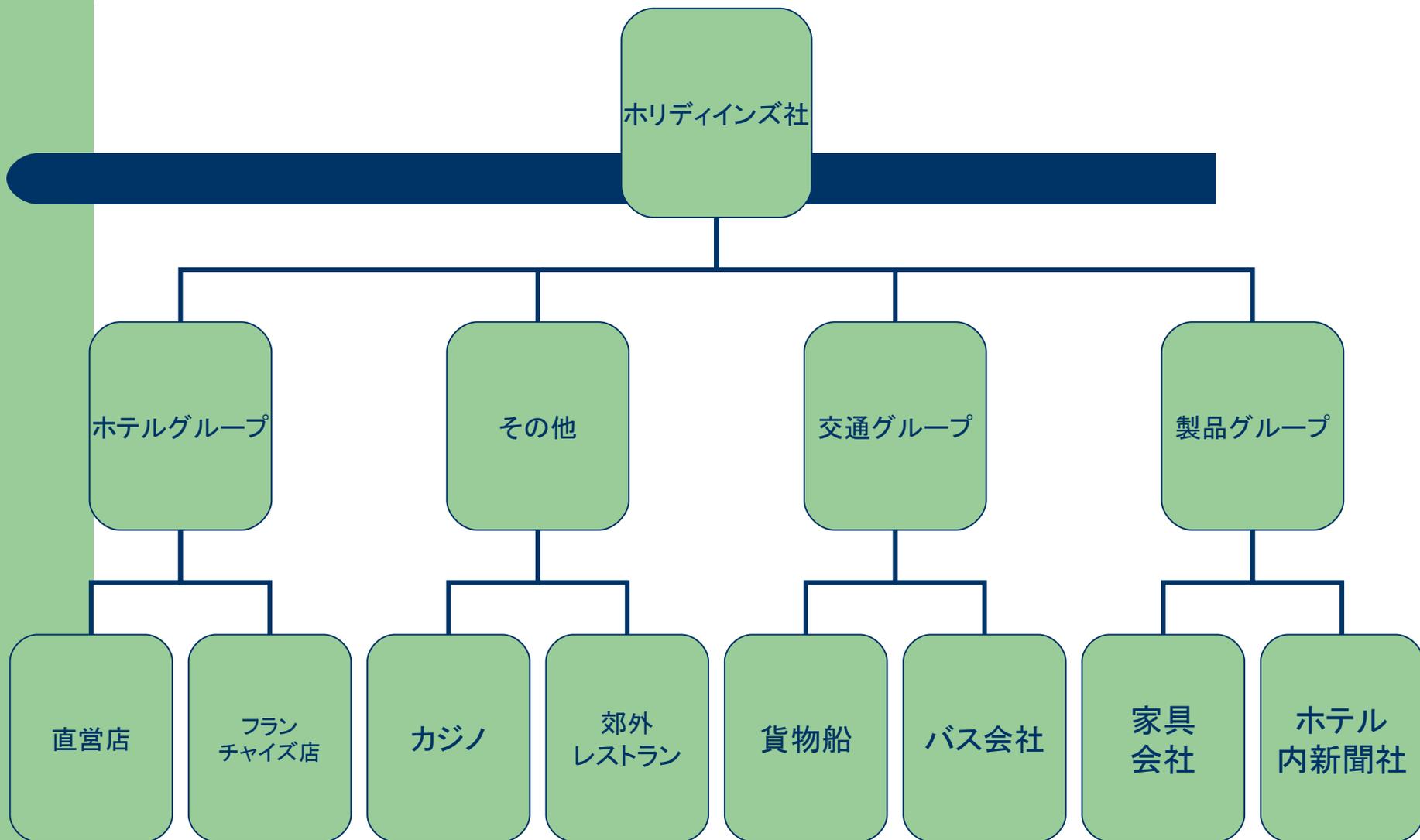
(12億ドルの売上高のうちホテル・モーテル部門の割合は50%程度)

①ホテル・グループ

②製品グループ…家具会社・新聞社

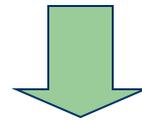
③交通グループ…バス会社・貨物船会社

④その他グループ…郊外レストラン・カジノ



## ホテル事業の特化の過程②

1980年 多数の事業を抱え込んだまま、次の時代の投資先をどこにするか決められず。



「旅行業」と「接客業」という2つのドメイン定義の間で対立。

※ドメインの定義・・・全社レベルで行われる事業の定義

## ホテル事業の特化の過程③

「旅行業」と定義した場合

⇒カジノやレストランからは撤退すべき。

「接客業」と定義した場合

⇒貨物船事業やバス会社は必要ない。

論点は、抽象的な議論のレベルではなく、具体的にどの事業を切り捨てて、どの事業を育てるか、という重点的投資分野の決定。

## ホテル事業の特化の過程④

結局、自社のドメインを「接客業」と定義。

⇒一般消費者に対して接客業務を行う事業分野に集中投資。

- カジノに力を入れ始める。
- バス会社を売却。
- 貨物船会社の買い手探しに着手。

# 次回以降の流れ

次回は、

“モーテルという新業態のホテルがなぜ日本にあまりないのか”

を考察しながら、ホリデイ・インズ社のグローバル戦略を考えていきたいと思います。

本日はご清聴ありがとうございました。